

＊ 「家子屋」教室の時間枠

…各講師に委託する時間単位（時間枠）を予め設定しておくこと、講座カリキュラムが作成・共有しやすくなる。

- ・例えば、開講のための講師の「家子屋」滞在期間を一週間とした場合、その一週間以内に
 - ・講座…20 時間
 - ・アットホームアワー…10 時間
 を講師に委託するものとして定め、一律に報酬を設定する。
- ・講師は現地での活動や受講者の生活を想定して、与えられた一週間の中で時間配分し、時間割やカリキュラムを作る。
 - 時間割の時間配分が偏っているため受講者が限られると思われる場合など、審査の段階で自治体が指摘し、修正・変更を要求することもある。

※1 週間の時間枠を「講座…20 時間、アットホームアワー…10 時間」とした場合の時間割例

…「講座」分の 20 時間は、〈1 講座×各 2 時間×10 コマ〉、〈2 講座×各 2 時間×各 5 コマ〉など、カリキュラムに応じて講師が時間割上に配分する。

「アットホームアワー」分の 10 時間も同様に、スケジュール調整の上で配分。

	月	火	水	木	金	土	日
10:00-12:00	課題解決ワークショップ①-1	課題解決ワークショップ①-2	休み	課題解決ワークショップ①-3	課題解決ワークショップ①-4	課題解決ワークショップ①-5	休み (終了・退去)
	昼休み			昼休み			
13:00-15:00	アットホームアワー			アットホームアワー			
16:00-18:00	課題解決ワークショップ②-1	課題解決ワークショップ②-2		課題解決ワークショップ②-3	課題解決ワークショップ②-4	課題解決ワークショップ②-5	

↑この例は、期間内に同一内容で2つの講座を（課題解決ワークショップ①、②/各5コマ）、異なる時間帯で開講するケース。

＊ 「家子屋」教室から広がるネットワークの可能性

- ・地域住民の暮らしの中で、地域産業の振興をともに学び、考えるコミュニティができる。
- ・今後の地域における生活や経済を考える上で必要とされる知識を、その道の師から学ぶ。「家子屋」の文字通りアットホームな空間が、少人数での細やかな指導を通し、年齢を問わず充実した学び合いの場となる。
- ・「家子屋」での体験から一生の「師」との出会いとなるようなビジネスのご縁が始まりうる。
- ・このアイデアは、鹿児島県内でグリーンツーリズムのさきがけである薩摩地域の、実在する空き家をイメージして生まれたものであるが、「家子屋」教室じたいは県内の他の地域でも広く展開可能である。県が主体となり、県内の空き家を「家子屋」教室として総合的に管理し、ニーズに応じて柔軟に運用することもできるのではないか。
- ・空き家となっている家を、自治体が「家子屋」教室として管理・活用するという前提でこのアイデアを挙げた。都市圏から来た講師・受講者が実際に「家子屋」教室での体験を通じて、現地での空き家購入を検討する可能性もある。グリーンツーリズム関連機関との連携に加え、そのようなケースも見込んで空き家バンクなどのデータベースも連動させてプロジェクトを展開する。